

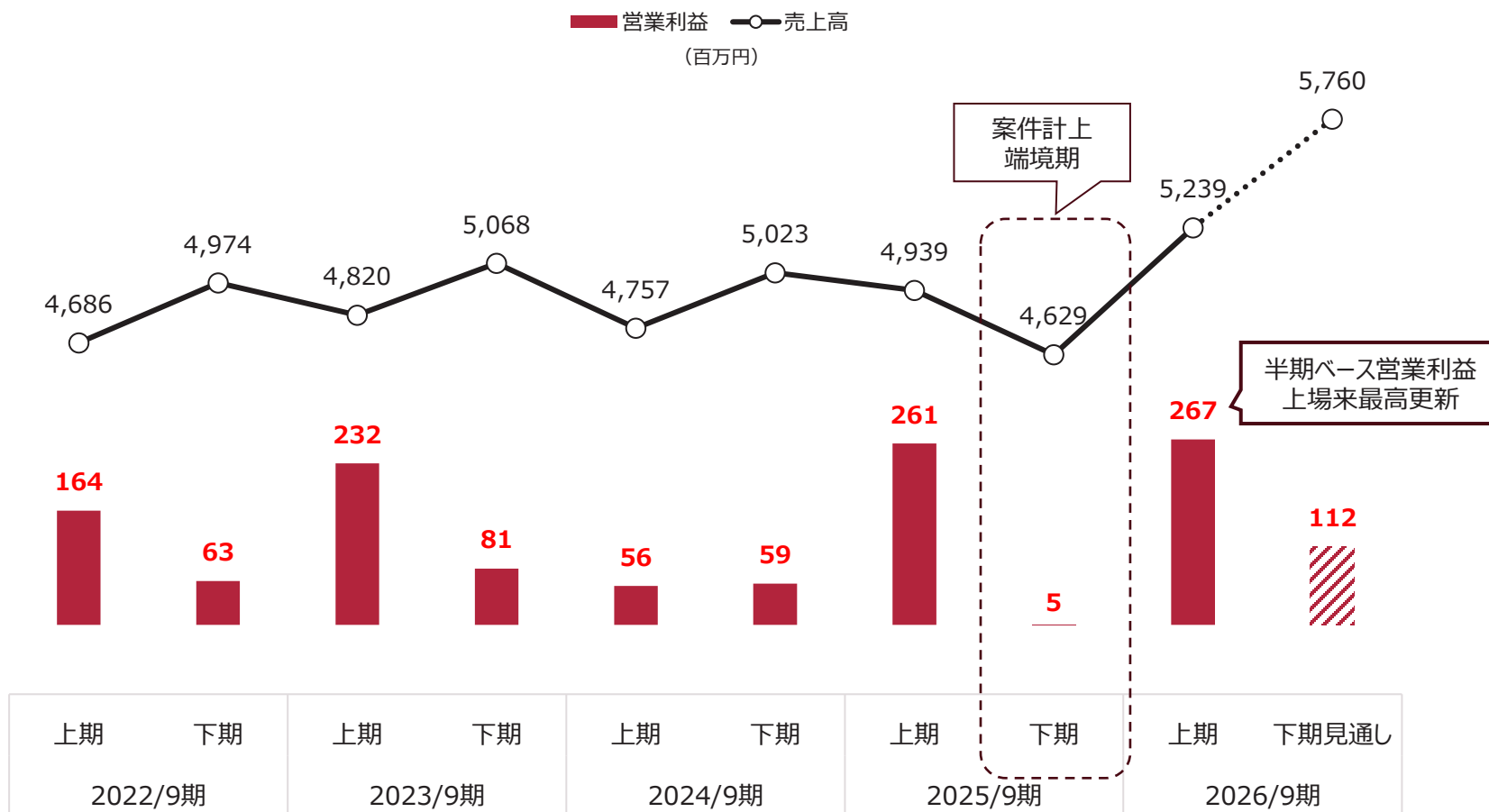


■ 2026/9期上期は前期比増収増益。営業利益は半期ベースで上場来最高更新

■ 成長を担うインダストリー事業、ニュー・インダストリー事業が業績を牽引

■ 通期予想は現状据置き、前期比増収増益を予想。下期は対上期で減益想定となるが、これは前年同様に主要案件が上半期に集中するインダストリー、ニュー・インダストリーの両事業で保守的な収益想定にあるため

半期別営業利益推移



2026/9期 上期決算概要

極東産機は、



■ 2026/9期上期は、前年比6%増収、2%営業増益。新規大型案件効果や自動車向けの好調を背景に、インダストリー、ニュー・インダストリーの2セグメントが業績を牽引

■ 一方、主力のプロフェッショナルは、インテリア事業における前年の値上げ前の駆け込み需要の反動もあり、減収減益。新カタログ発刊費用も嵩み、赤字を計上。コンシューマは黒字継続

■ なお、利益率は前年比で低下。インダストリー、ニュー・インダストリーといった高利益率を成しえたセグメントは伸長したものの、プロフェッショナルの苦戦が足枷に

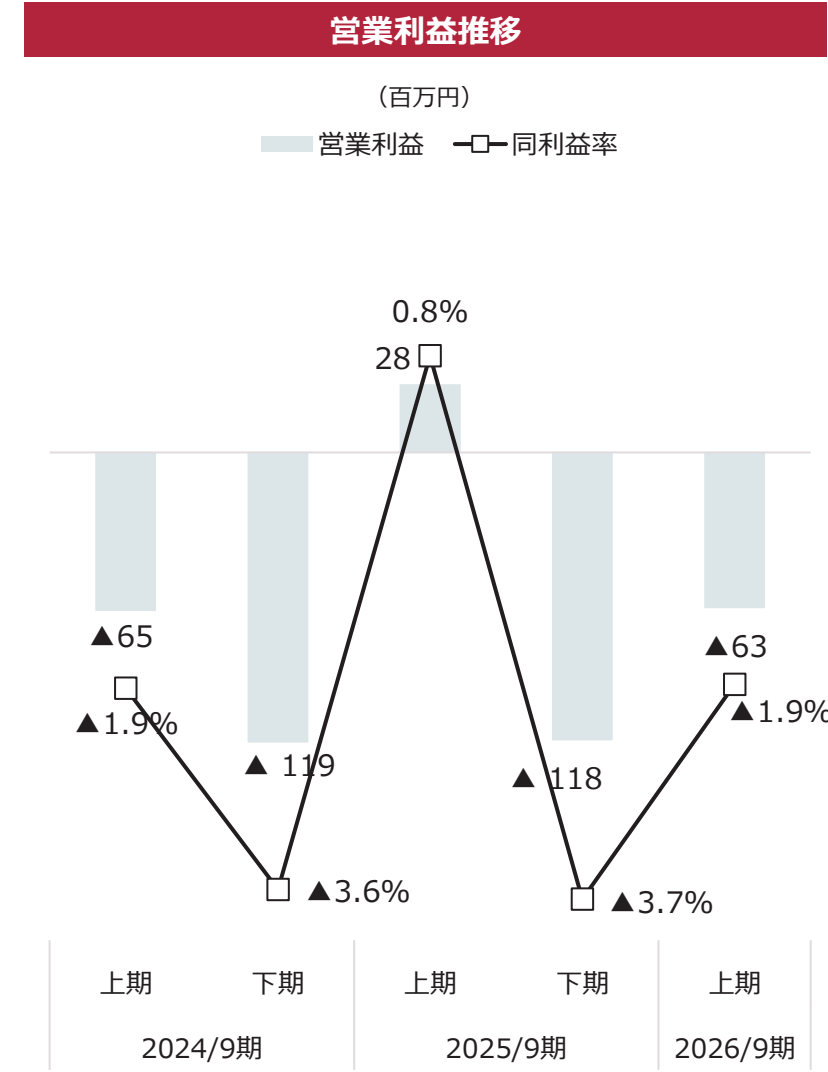
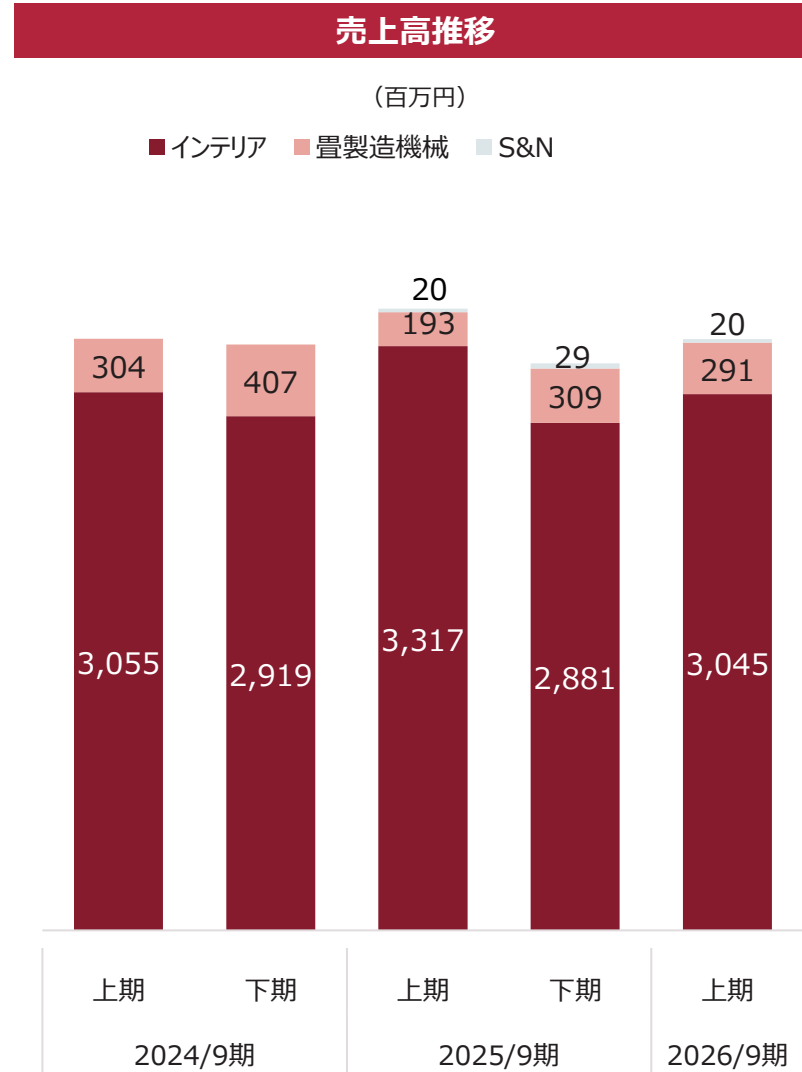
(百万円)	2025/9期		2026/9期			
	上期	下期	上期	対前年同期比		通期想定進捗率
				増減額	増減率	
売上高	4,939	4,629	5,239	+300	+6.1%	47.6%
プロフェッショナル	3,531	3,220	3,357	▲174	▲4.9%	44.2%
コンシューマ	398	346	398	▲0	▲0.2%	41.9%
インダストリー	679	547	992	+313	+46.1%	62.0%
ニュー・インダストリー	330	514	493	+162	+49.1%	57.9%
営業利益	261	▲1	267	+6	+2.1%	70.3%
プロフェッショナル	28	▲118	▲63	▲92	-	-
コンシューマ	15	4	8	▲6	▲42.8%	21.4%
インダストリー	169	70	240	+71	+41.9%	96.2%
ニュー・インダストリー	47	49	81	+33	+69.8%	3.3倍
EBITDA	351	103	361	+10	+2.9%	62.9%
経常利益	240	10	223	▲16	▲6.9%	60.4%
親会社株主帰属当期純利益	172	0	143	▲28	▲16.7%	61.3%
営業利益率	5.3%	0.1%	5.1%	▲0.2pt		
経常利益率	4.9%	0.2%	4.3%	▲0.6pt		

■ 2026/9期2Q発生ベースでも、半期ベースとほぼ同様、前年比で増収（営業）増益。やはりインダストリー、ニュー・インダストリーの2セグメントが業績を牽引

■ 一方、プロフェッショナルは4四半期連続の営業赤字。インテリア事業の駆け込み需要の反動減とカタログ製作費用のため、畳事業の伸び悩みをカバーできず

(百万円)	2025/9期				2026/9期		前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減額	増減率
売上高	2,146	2,793	2,170	2,459	2,243	2,996	+202	+7.2%
プロフェッショナル	1,651	1,880	1,552	1,668	1,544	1,812	▲67	▲3.6%
コンシューマ	211	187	156	190	200	197	+10	+5.4%
インダストリー	162	516	206	341	305	687	+170	+33.1%
ニュー・インダストリー	120	209	255	259	193	298	+88	+42.3%
営業利益	17	244	▲39	45	15	251	+7	+2.9%
プロフェッショナル	▲10	38	▲77	▲41	▲37	▲25	▲64	-
コンシューマ	9	6	▲3	8	3	5	▲0	▲10.2%
インダストリー	6	163	0	69	37	203	+39	+24.4%
ニュー・インダストリー	11	36	41	7	12	68	+32	+89.7%
EBITDA	61	290	8	94	62	299	+8	+3.1%
経常利益	5	234	▲23	34	3	219	▲14	▲6.1%
親会社株主帰属 当期純利益	2	169	▲23	22	▲3	147	▲22	▲13.4%
営業利益率	0.8%	8.7%	▲1.8%	1.8%	0.7%	8.4%	▲0.4pt	
経常利益率	0.3%	8.4%	▲1.1%	1.4%	0.2%	7.3%	▲1.0pt	

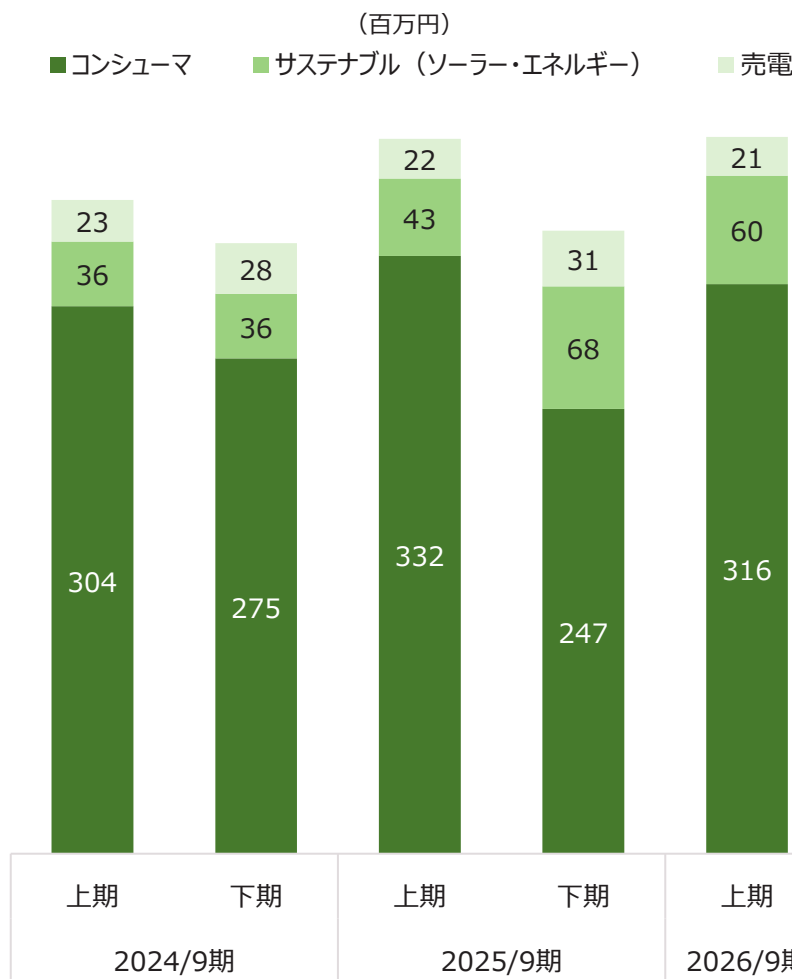
- インテリア事業は駆け込み需要の反動で前年比減収。前下期からは売上増となったものの、セグメントを牽引する力強さには欠ける
- 畳事業は補助金採択一巡による低迷基調に変化はないものの、差別化戦略による他社ユーザーの取り込みと、老朽機械入替需要は底堅く、前期比では増収を確保



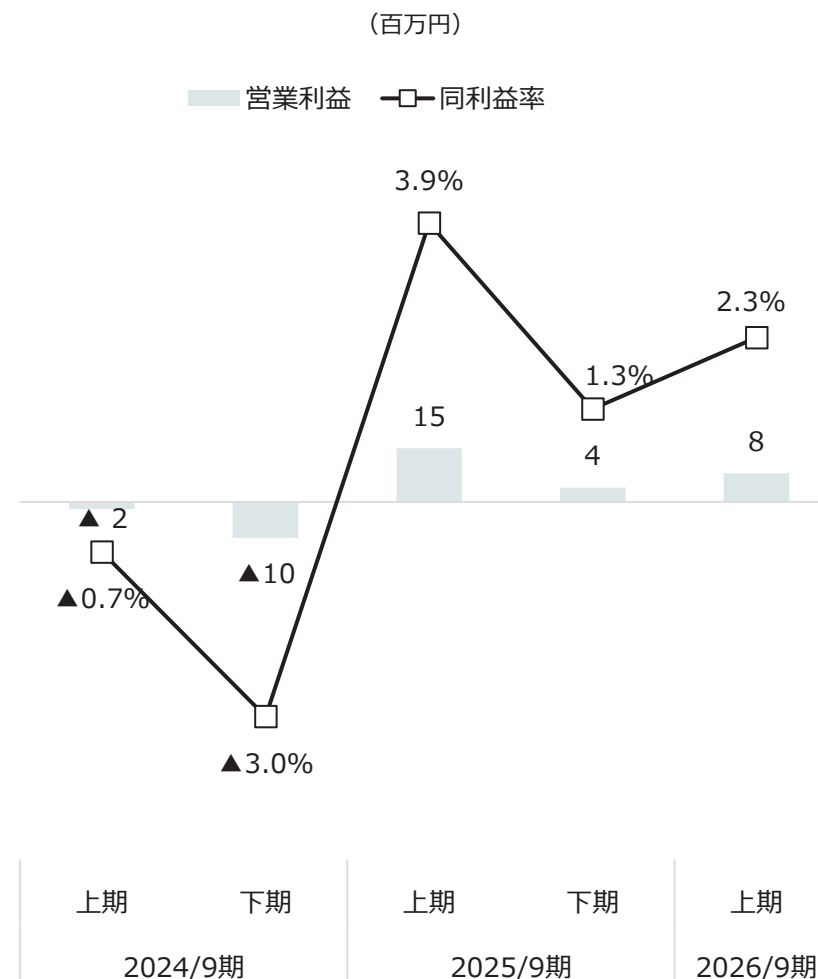
■ コンシューマ事業の売上は前年比微減。葬祭用置や特殊機能置に加えて、スポーツ施設向け防音フロアマットなど新たな需要開拓は着実に進捗も、同時に競争激化にも直面

■ サステナブル（ソーラー・エネルギー）事業は順調。新たな案件の積上げピッチは鈍いものの、安定的に推移

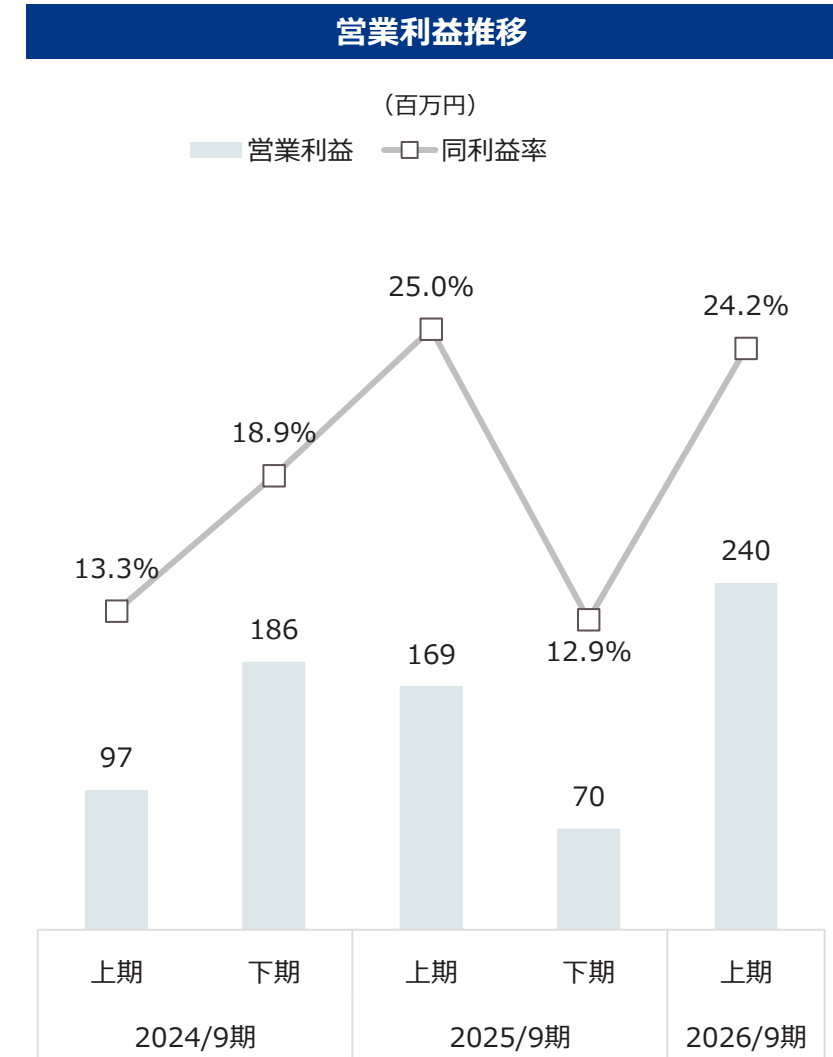
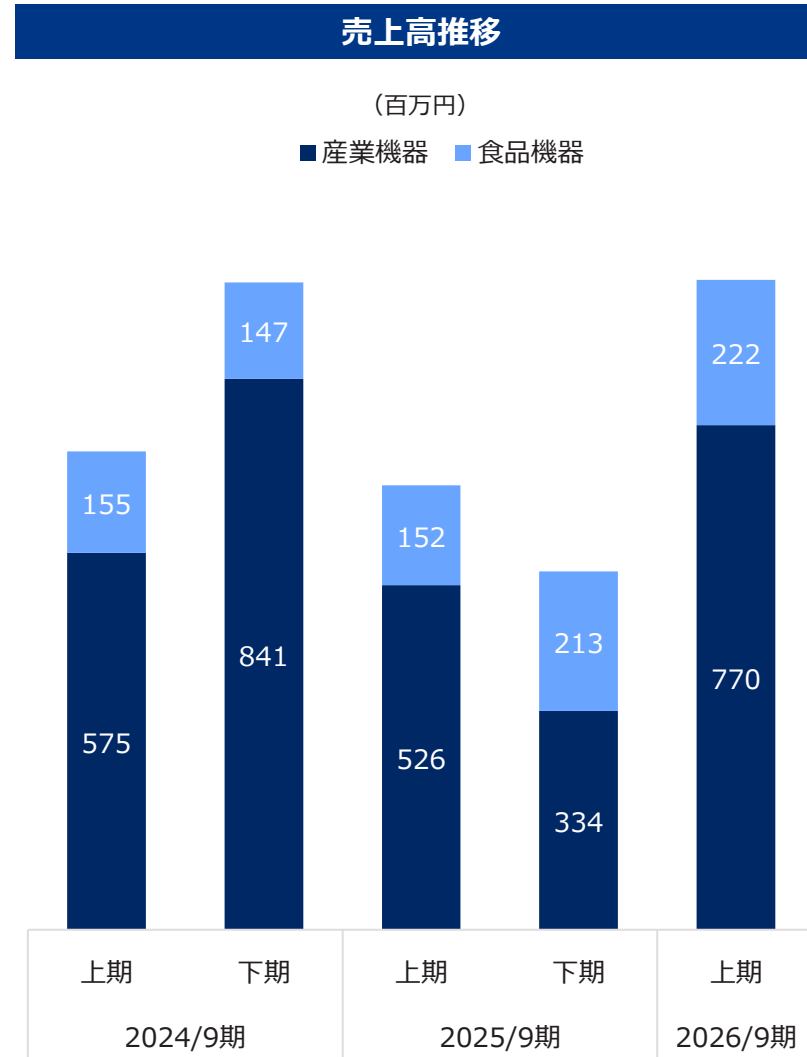
売上高推移



営業利益推移



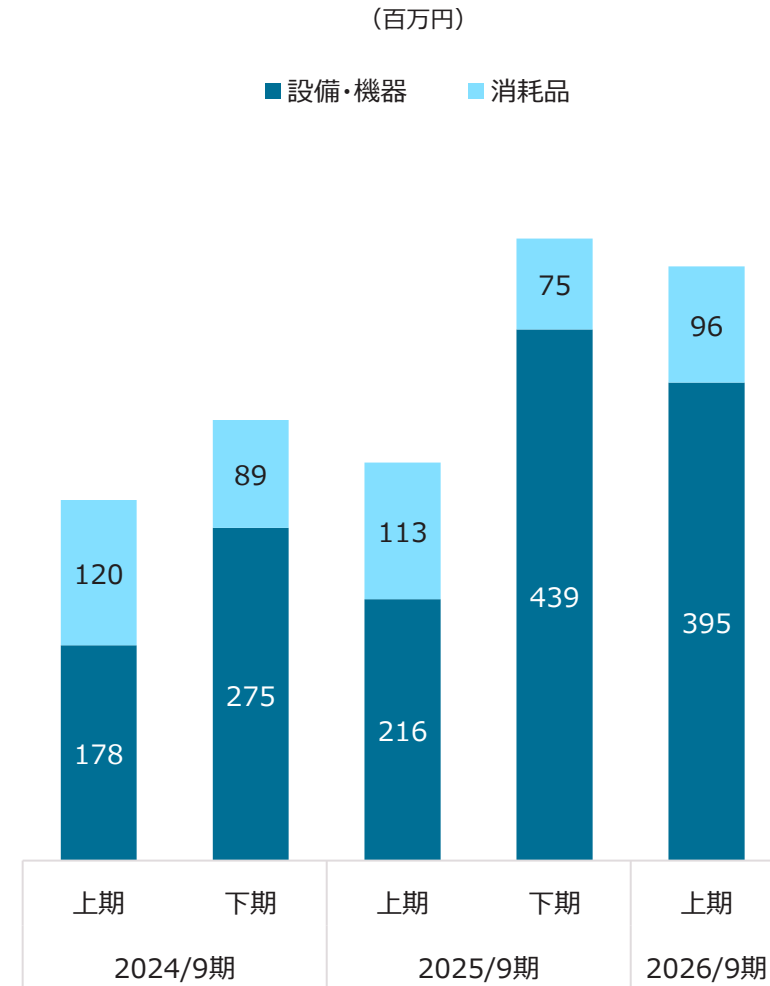
- 産業機器事業は、二次電池製造装置の継続的な受注に加え、温度センサー等の新たな期待分野の製造装置を受注
- 温度センサーは新規案件ながら、コスト削減が奏功して損益面でも大きな牽引役に
- 食品機器は引き続き、大手回転寿司チェーンのマルチディスペンサーを大量納入。売上は着実に拡大しており、当上期も前年比増収



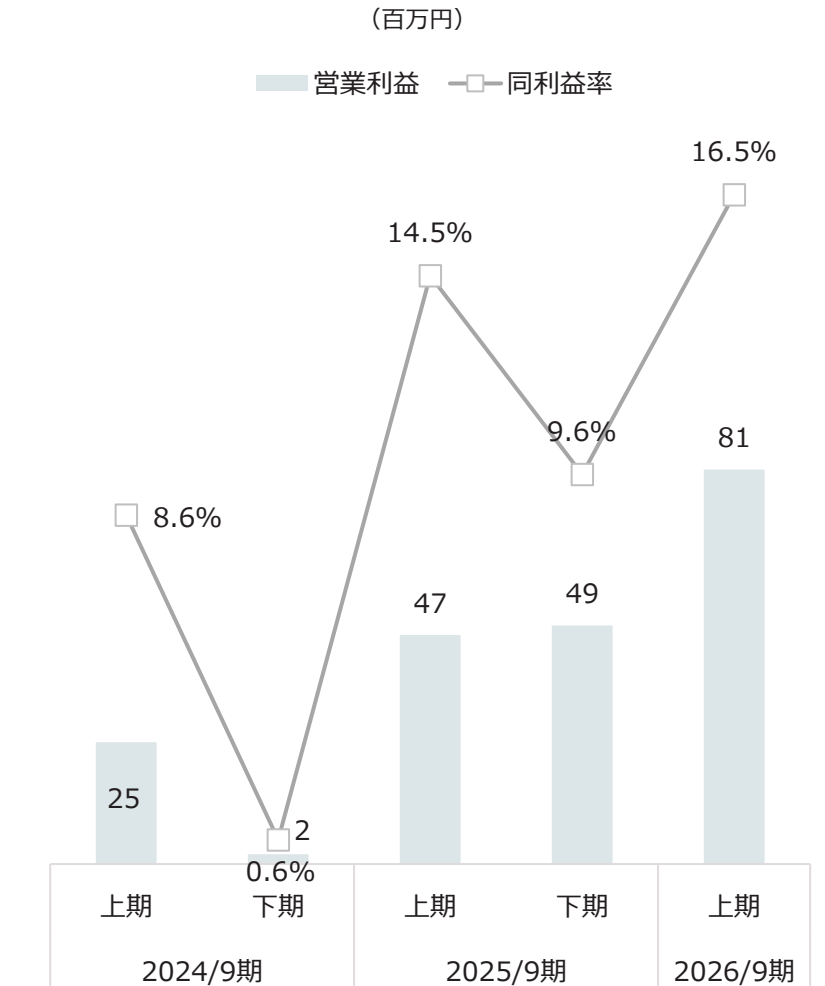
引き続き、自動車関連業界からの受注は順調に推移。設備・機器は前年比増収増益。ただし、前期比では微減収となり、増収の勢いはやや鈍化

先行指標となる消耗品の売上は依然として高水準

売上高推移



営業利益推移

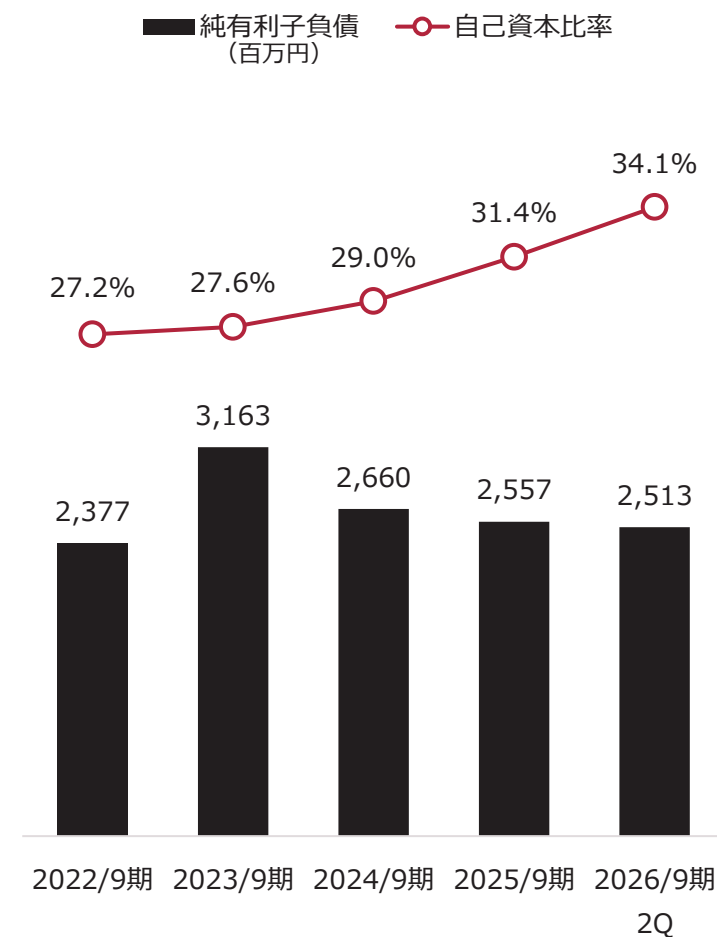


■ 上期末の自己資本比率は34.1%。財務は着実に健全性を増している

■ 純有利子負債額は25億円。大型設備投資で大きな財務負担を負った2023/9期の純有利子負債32億円をピークに、有利子負債は漸減

(百万円)	24/9期	25/9期	26/9期2Q	前期末比 増減
流動資産	5,660	5,322	4,911	▲411
現預金	1,475	1,308	1,195	▲113
売上債権	2,605	2,412	2,424	+12
棚卸資産	1,373	1,352	1,199	▲153
固定資産	4,464	4,456	4,403	+52
負債	7,191	6,713	6,141	▲571
買入債務	1,673	1,502	1,099	▲403
有利子負債	4,136	3,865	3,708	▲156
純資産	2,933	3,066	3,173	+106
総資産	10,124	9,779	9,315	▲464

純有利子負債と自己資本比率の推移



FCFは5半期連続で黒字を計上。
2022/9期～3/9期の大型投資
以降は、設備投資を抑制

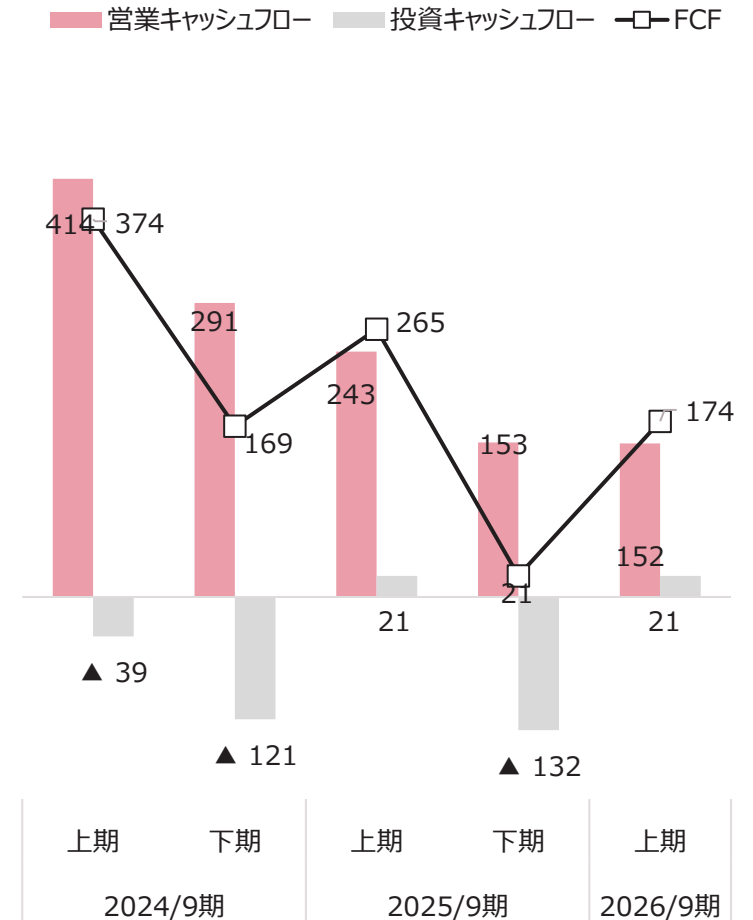
確保したFCFは財務基盤回復に
充当。借入金の返済を進めたため、
財務CFはマイナスが継続

(百万円)	24/9期		25/9期		26/9期
	上期	下期	上期	下期	上期
営業CF	414	291	243	153	152
運転資本増減	527	28	61	▲112	▲179
投資CF	▲39	▲121	21	▲132	21
固定資産取得	▲86	▲46	▲27	▲45	▲20
FCF	374	169	265	21	174
財務CF	▲135	▲147	▲197	▲259	▲228
借入金変動	▲79	▲143	▲141	▲255	▲162
自己株式処分	-	-	-	-	10
配当金支払	▲53	-	▲53	-	▲53

* FCF=営業CF+投資CF で算出

CFの推移

(百万円)



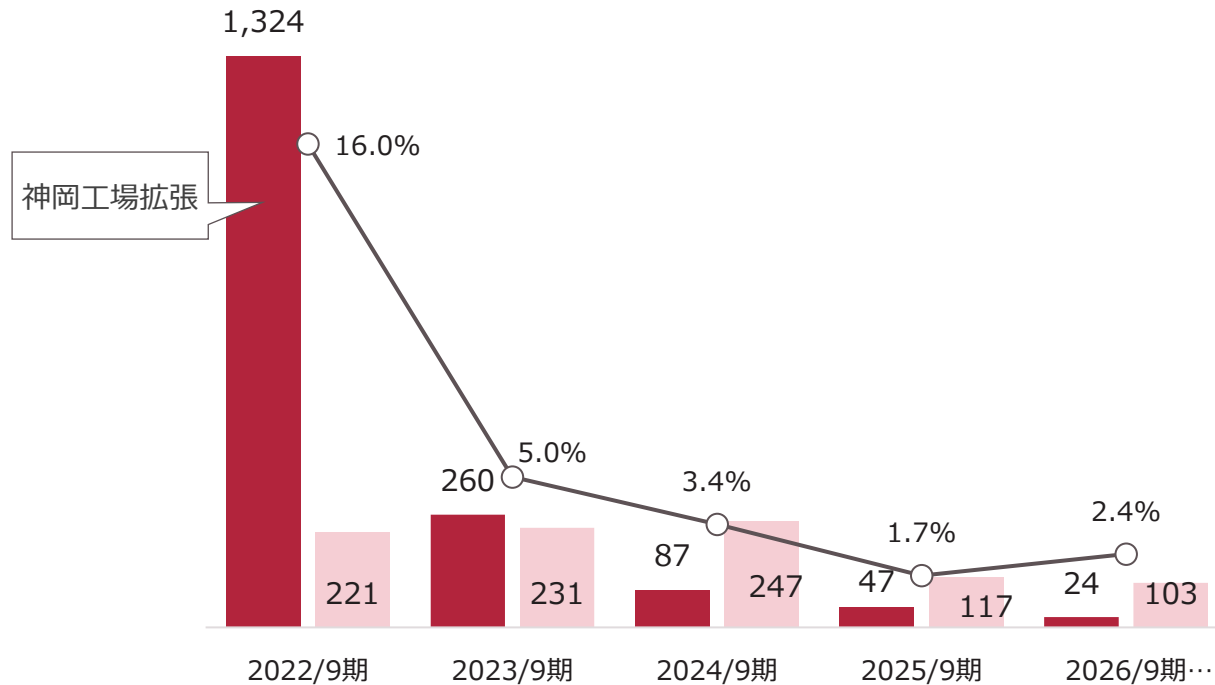
設備投資、特許件数の推移

- 設備投資は4年前の新工場建設をもって一段落
- その後はビジョン80に基づく人的資本投資、DX投資に注力
- オリジナル製品の開発の先行指標となる特許出願件数、特許取得件数とも順調に推移

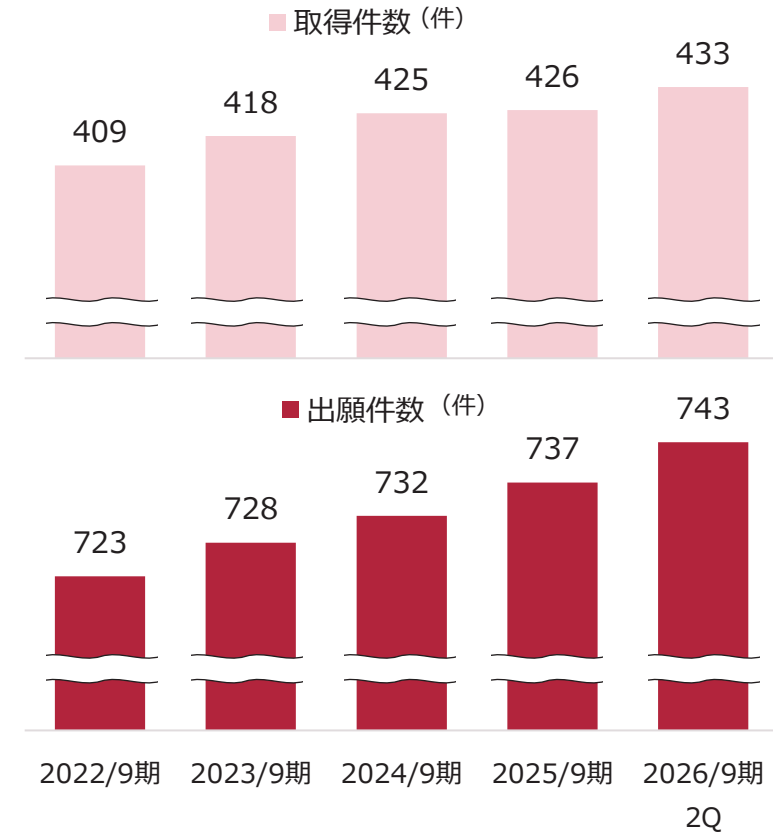
投資&研究開発費の推移

(百万円)

- 固定資産増加額
- 研究開発費
- (固定資産増加額+研究開発費) / 売上高



特許取得件数（累計）の推移



2026/9期 決算見通し

極東産機は、



26/9期通期は従来想定を据置き。増収増益を想定し、営業増益は2期連続、売上は100億円超達成に再度挑む

セグメント別には、最大の増収幅を想定するプロフェッショナルが黒字転換する他、コンシューマも2ケタ増収増益を想定

一方、インダストリーは3割増収を想定するも、リピート案件減少、高採算案件減少で増益貢献は限定的に留まる見通し。ニュー・インダストリーも、大型設備の利益率を保守的に想定するとともに、消耗品減速を見込み、唯一の減益セグメントに

(百万円)	2024/9期	2025/9期	2026/9期		
			見通し	前期比	
				増減額	増減率
売上高	9,781	9,569	11,000	+1,430	+15.0%
プロフェッショナル	6,692	6,752	7,600	+847	+12.6%
コンシューマ	705	745	950	+204	+27.4%
インダストリー	1,719	1,227	1,600	+372	+30.4%
ニュー・インダストリー	663	844	850	+5	+0.7%
営業利益	115	267	380	+112	+42.0%
プロフェッショナル	▲184	▲90	63	+153	(黒字転換)
コンシューマ	▲12	20	42	+21	2.1倍
インダストリー	284	239	250	+10	+4.2%
ニュー・インダストリー	27	97	25	▲72	▲74.3%
EBITDA	359	454	575	+120	—
経常利益	112	250	370	+119	+47.6%
親会社株主帰属 当期純利益	76	172	235	+62	+36.0%
営業利益率	1.2%	2.8%	3.5%	+0.7pt	
経常利益率	1.1%	2.6%	3.4%	+0.7pt	

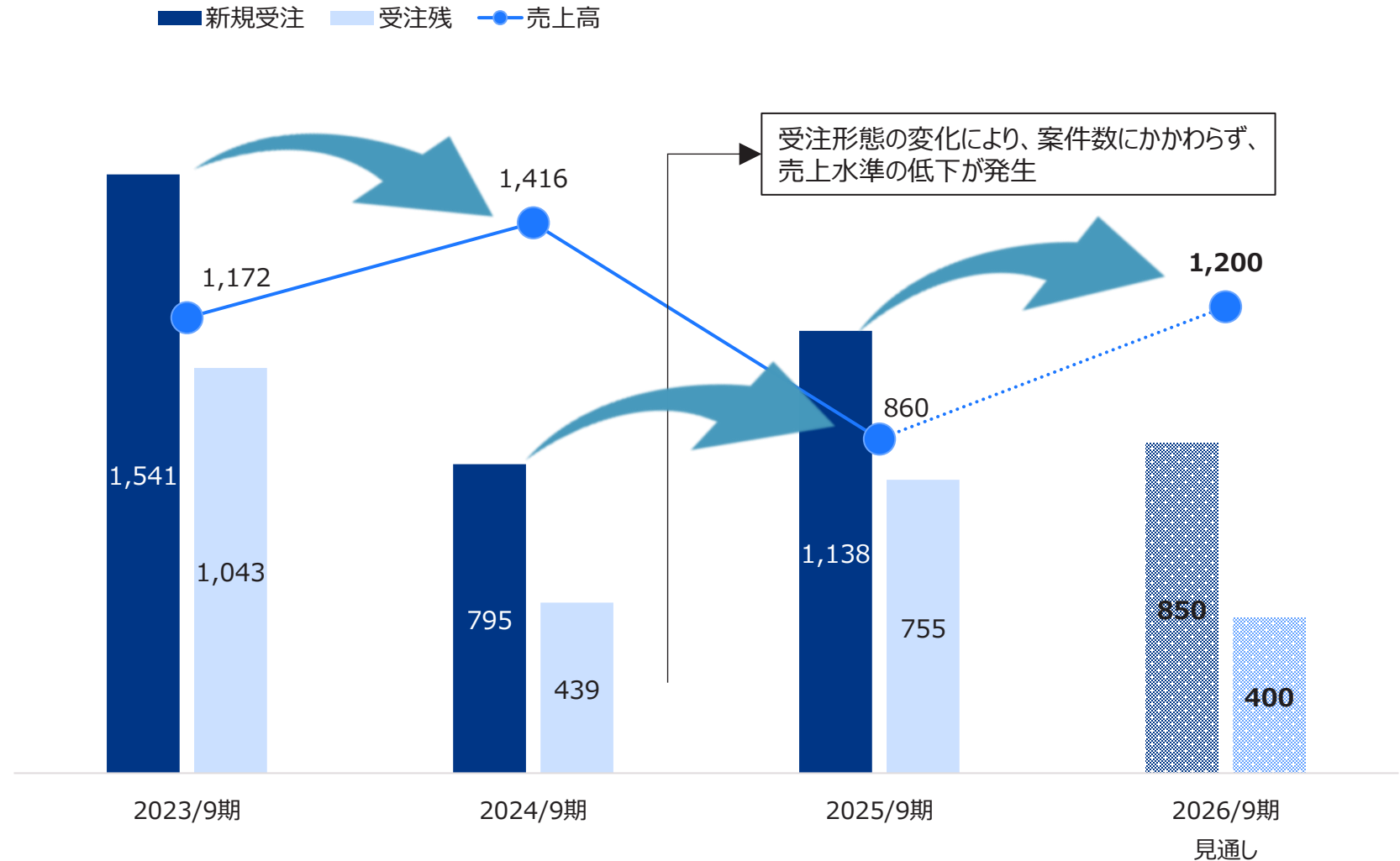
26/9期を半期別にみると、下期は対前年では大幅増収増益となる一方、対上期では増収減益を想定

セグメント別には、インテリア事業におけるカタログ費用の消失や駆け込み需要反動の一巡、畳事業の復調などからプロフェッショナル事業が下期は黒字浮上

一方、上期好調だったインダストリー、ニュー・インダストリーは、需要堅調ながら、下期の大型売上納期案件、高利益率案件は少なく、下期は調整局面に

(百万円)	2025/9期		2026/9期			
	上期	下期	上期実績	下期見通し	前年下期比	
					増減額	増減率
売上高	4,939	4,629	5,239	5,760	+1,130	+24.4%
プロフェッショナル	3,531	3,220	3,357	4,242	+1,022	+31.7%
コンシューマ	398	346	398	551	+205	+59.2%
インダストリー	679	547	992	607	+59	+10.9%
ニュー・インダストリー	330	514	492	357	▲156	▲30.4%
営業利益	261	5	267	112	+106	-
プロフェッショナル	28	▲118	▲63	126	+245	-
コンシューマ	15	4	8	33	+28	+615.8%
インダストリー	169	70	240	9	▲61	▲86.6%
ニュー・インダストリー	47	▲9	81	▲56	▲105	-
EBITDA	351	103	361	214	+151	3.4倍
経常利益	240	10	223	146	+135	12.8倍
親会社株主帰属 当期純利益	172	0	143	91	+91	-
営業利益率	5.3%	0.1%	5.1%	2.0%	+1.8pt	
経常利益率	4.9%	0.2%	4.3%	2.5%	+2.3pt	

- 新規受注高と「翌期売上高」には高い相関関係。この構図に変更がないとすれば、下期の売上積み増しは期待可能
- より「当社ならではの」産業機械に注力すべく、工場は“豊機械中心”から“産業機器中心”の施設への軸足変化を推進

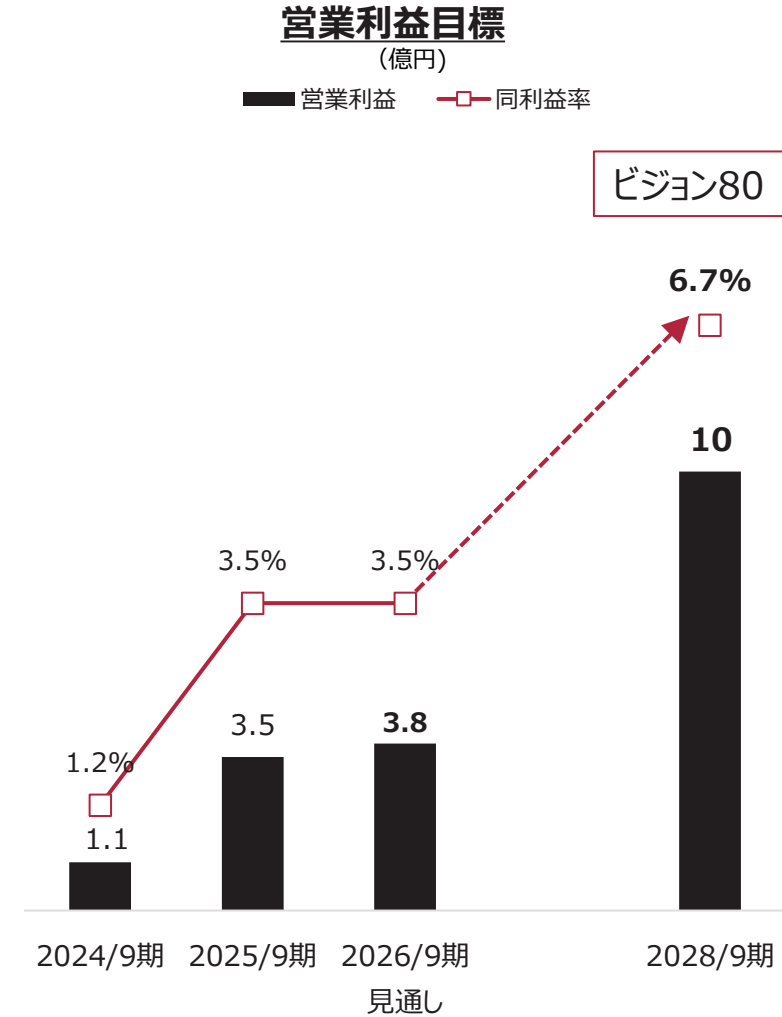
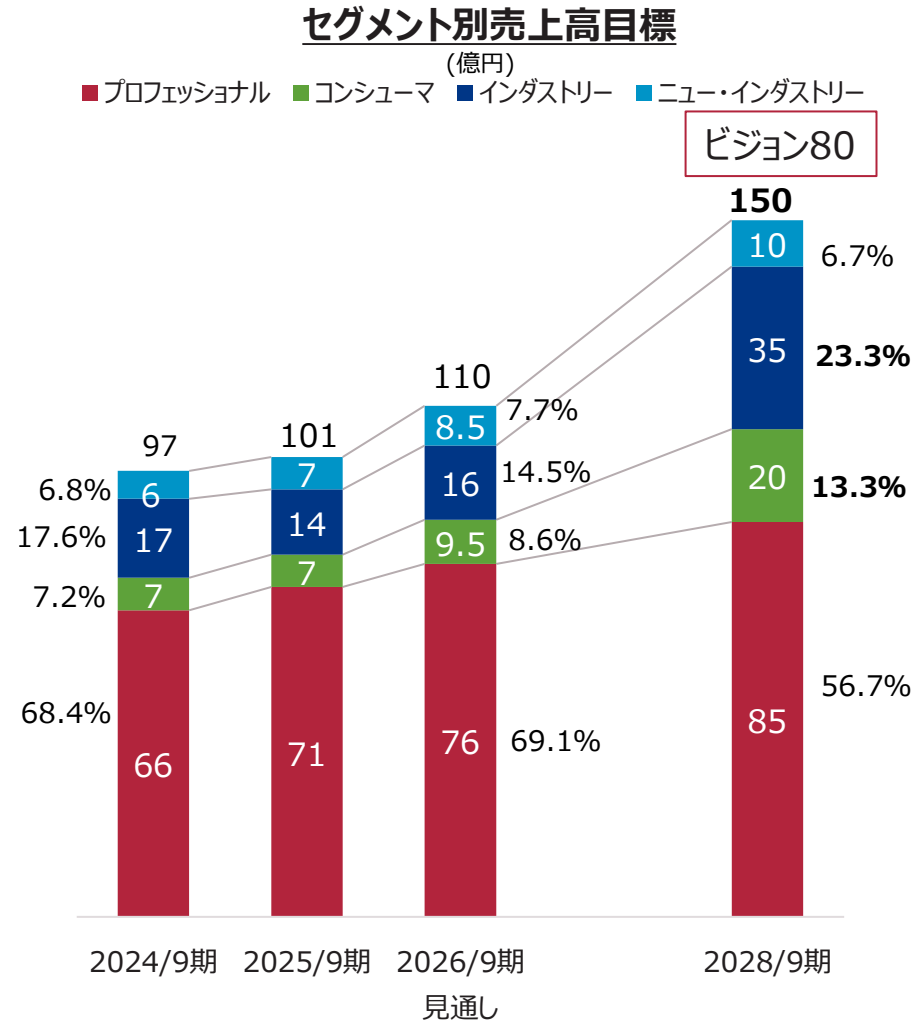


ビジョン80進捗状況&トピックス

極東産機は、



売上・利益とも順調に拡大も、ビジョン80達成に向けてはよりスピードアップが必要。随時追加的なテコ入れ策を検討



プロフェッショナルセグメント : 新販路開拓

- ✓ インテリア部門の新販路としてホームセンター、防水（屋根）業界などをリストアップ
- ✓ 2028/9期までにインテリア事業で2ケタの売上成長を目指す

インダストリーセグメント

: 引合対応力向上

ニュー・インダストリーセグメント

- ✓ 若手の育成や間口を広げる案件への設計/開発の外注先活用を通じ、引合対応力を向上
- ✓ 機会損失の発生を抑制し、受注件数を増加



コンシューマセグメント : 黒字体質定着

- ✓ 最適地生産や部門間統合・相互乗入による効率性向上により、黒字定着へ
- ✓ 棺用畳仕入の海外比率はかつて50%から上半期はゼロにコントロール

「自動化技術」を活用した省力化システムの導入による地場産業の活性化

協働ロボットを活用したマテハンシステム（そうめん投入装置）を設計・開発・販売




地場手延べ
そうめん問屋

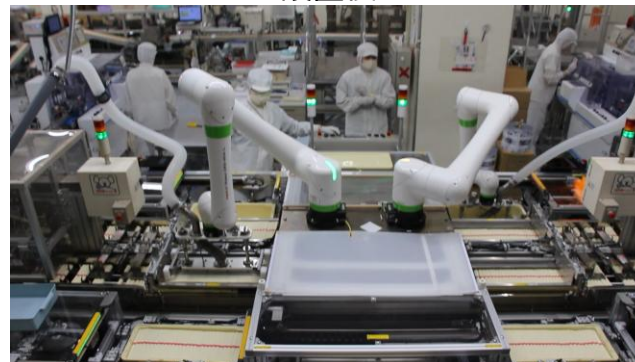
投入成果

所要人数 5人 ⇒ 1.5人に省人化

設置前



設置後



手延そうめんの製造工程

「手作業で行わなくては
ならない中工程」
(JAS*規定)



1996年9月販売開始
「麺帯自動巻き取り装置」

本件（2025年11月納入）
「そうめん投入装置」

*JAS（Japanese Agricultural Standards）：日本農林規格

● なお、本件は三井住友銀行から「SMBC社会課題解決推進支援融資」の対象。社会課題の解決に向け、以下の貢献に期待

- ① 地場の手延べそうめん問屋が協働ロボット活用のマテハンシステム（そうめん投入装置）の導入で、技能伝承に繋がる手作業の製麺工程を尊重しつつ、後工程の箱詰めが自動化され人手不足解消に貢献
- ② 本システムにより従業員の作業工数が減少し、労働環境の改善に貢献。人口減少地域において地場産業が維持されることにも寄与

Appendix

極東産機は、

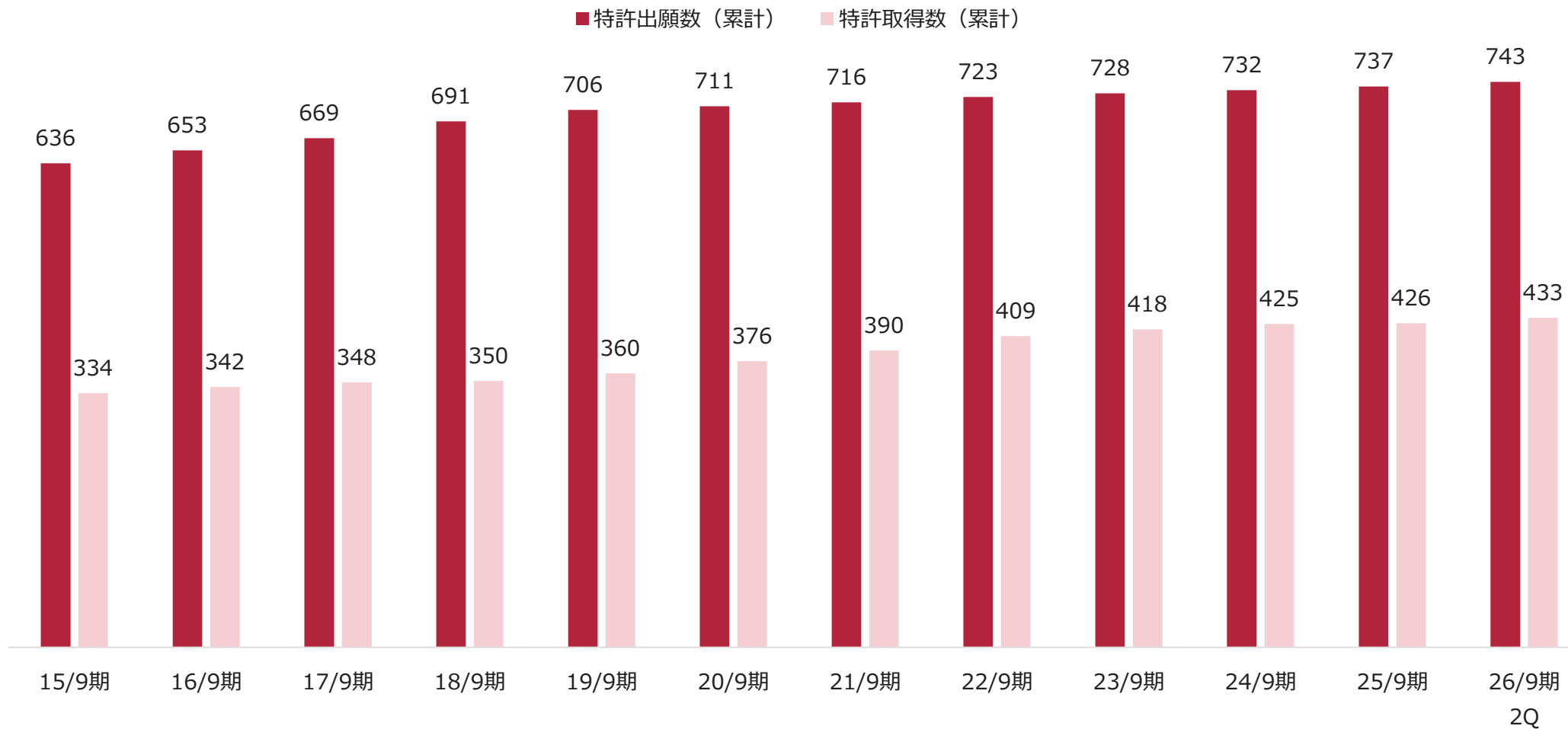


■ 畳製造装置や自動壁紙糊付機等の住宅に関わる製品や、地元産業との異業種交流から始まった食品機器の開発を通じ、長年培ってきた7つのコア技術を活用した産業機器の開発・製造やFactory Automation化の提案で、ものづくり現場に貢献

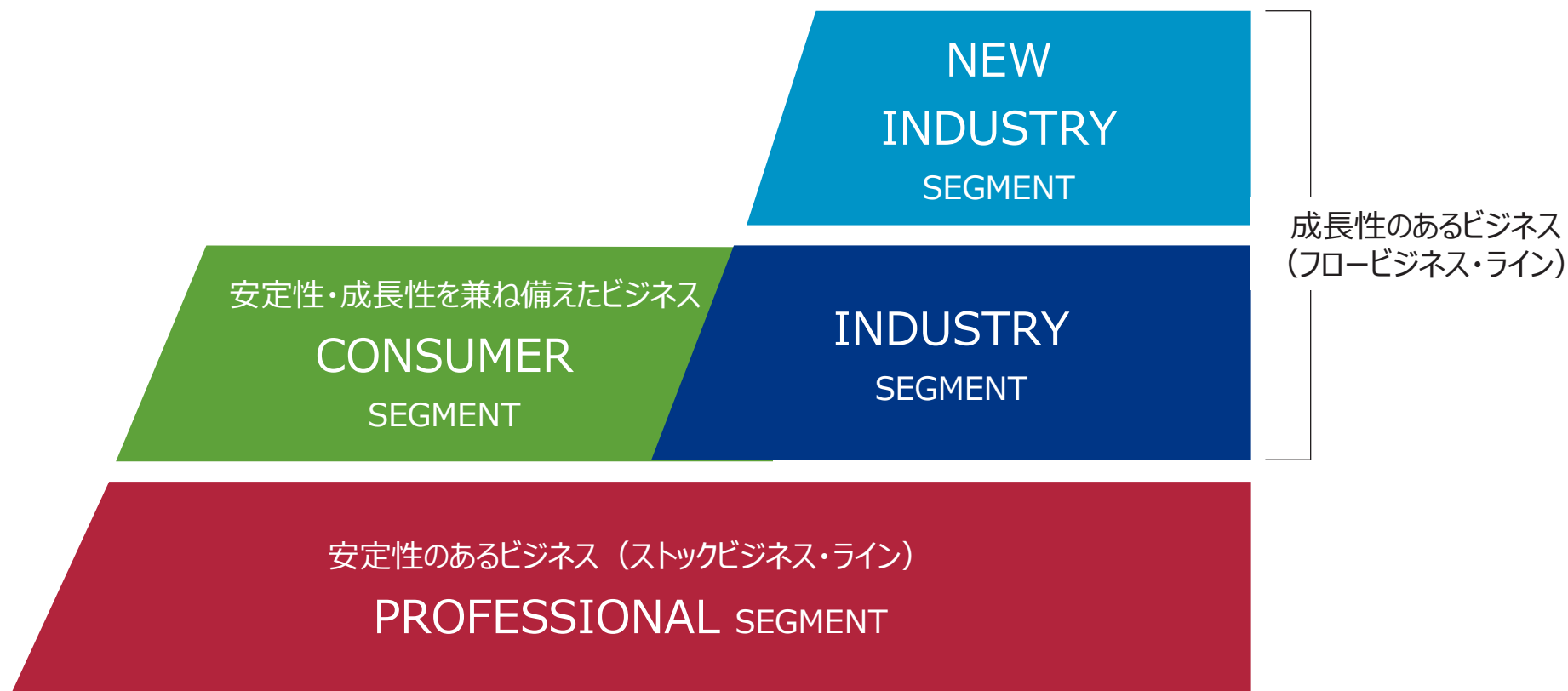


	当社のテリトリー 創業来この分野への挑戦を継続	通常の機械メーカーのテリトリー
対象物	形状が不均一 破れやすくシワになり易いモノ 機械化の困難なモノ	規格製品 変形せず掴み易いモノ 機械化の容易なモノ
経験とノウハウの蓄積 → 機械化の実現		
Point	<ul style="list-style-type: none"> 職人技術の世界への参入 全ての要素技術が同時に満たされなければ職人と対抗不可 その結果、他社では実現困難な機能の提供が可能に 	<ul style="list-style-type: none"> 多数の企業が参入可能 要素技術は分業化傾向

開発を通じて蓄積した技術については積極的に特許の取得を推進



- 当社はこれまで、創業以来の「プロフェッショナルセグメント」が、技術力と商品力を駆使して新商品を開発し、新市場を作り続けてきた
- 今後とも、「安定性」のある「プロフェッショナル」と「成長性」のあるその他3セグメントが、それぞれの強みの相乗効果を発揮してさらなる発展を遂げていく



		2021/9期	2022/9期	2023/9期	2024/9期	2025/9期	2026/9期2Q
売上高	(千円)	9,169,425	9,660,071	9,888,009	9,781,915	9,569,361	5,239,920
経常利益	(千円)	273,578	194,796	283,732	112,050	250,672	223,494
当期純利益	(千円)	189,534	143,422	102,307	76,273	172,739	143,962
資本金	(千円)	631,112	631,112	631,112	631,112	631,112	631,112
発行済株式総数	(株)	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000
純資産額	(千円)	2,780,993	2,841,288	2,915,188	2,933,339	3,066,309	3,173,241
総資産額	(千円)	8,625,240	10,430,851	10,575,752	10,124,388	9,779,325	9,315,035
1株当たり純資産額	(円)	515.86	527.05	540.76	544.13	590.88	608.68
1株当たり配当額	(円)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	–
1株当たり当期純利益金額	(円)	35.16	26.60	18.98	14.15	32.12	27.67
自己資本比率	(%)	32.2	27.2	27.6	29.0	31.4	34.1
自己資本利益率	(%)	6.9	5.1	3.6	2.6	5.8	–
配当性向	(%)	28.4	37.6	52.7	70.7	31.1	–
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	460,771	263,057	▲162,264	705,569	397,008	152,249
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲794,812	▲1,088,497	▲512,180	▲161,018	▲111,373	21,865
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	442,782	757,699	390,093	▲282,904	▲456,226	▲228,941
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	1,155,091	1,087,351	803,000	1,064,646	894,055	839,228
従業員数	(人)	292	295	298	300	293	–
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(25)	(29)	(29)	(27)	(19)	–

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
管理本部総務部 IR担当
0791-62-1771 (代表)
ir-info@klass-corp.co.jp